風土記の丘の花だより163

今、そしてこれから見られる植物（2022年12月3日）

今年も師走になりました。１年なんてあっという間ですね。見かける虫も少なくなりました。成虫で越冬するバッタやカメムシの仲間が、たまにヨタヨタ出てきているのを見ると「ウロウロしないで、早く冬越しの場所を見つけろよ」と言ってやりたくなります。

前の 162 号で「ヒイラギの花は咲いていない」と書いた直後、谷山家の庭で見つけてしまい、観察不足を反省した次第です。昨年も書いたように、ヒイラギの花には雄花と雌花がありますが、ここの花は雌しべが目立たず、雄しべが長いのできっと雄花でしょう。でも悲しいかな、花はほんの少し、たったの数輪です。これをご覧になる頃まで咲いていてくれることを祈るばかりです。

ヒイラギの近くのアオキの木に赤い実がたくさんなっています。この木にも雌雄があります。これは実ができているので、もちろん雌株です。写真ではまだ真っ赤ではありませんが、寒くなるにつれて赤い色が更に深まってくることでしょう。

小早川家の庭にスミレの花が咲いています。スミレといえば春の花のイメージがありますが、こんな時期にも咲くのですね。このスミレは花柄をはじめ、全体に毛が多いし、花が少し青みがかっていることからノジスミレと判断しました。昨年の観察記録を見ても「小早川家の庭で 11 月 11 日に開花を確認」とありました。興味深いですね。

161 号でハマヒサカキの雌花を紹介しましたが、すでに散り果て、代わって雄花がよく咲いてきました。谷山家の北の通路に沿った植え込みです。小さな花ですが中を覗くと黄色い雄しべがたくさんあるのが分かります。以前はツバキ科、今ではサカキ科となっています。雄しべの感じなんか、たしかにツバキに似ています。でも、サカキ科なんですね。　　松下